

な

ご

み

つ

う

し

ん

発行日：平成 28 年 11 月 28 日（第 23 号）

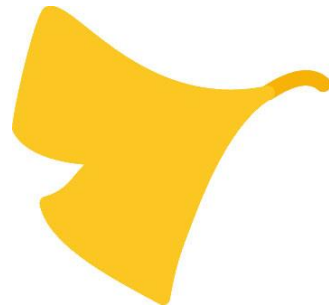
発行：島田療育センターはちおうじ

「いのちの授業」を終えて、生徒は「いのち」や「障害」をどうとらえたのでしょうか？そんな感想を紹介します（その3）。

所長 小沢 浩

障害者の人でも一生懸命生きていること、親は本当に子供のことを大好きなんだということなどたくさん学ぶことができました。また、配られたプリントには生死の境をさまよった息子のお父さんの思いがたくさん書かれていて、とても感動しました。世界中すべての人々が五体満足、障害がなく生まれてくるわけではないけど、障害があってもなくても「命」の重さは同じだと思います。

私は、生後一カ月で手術などをして自分の中では「なんで自分だけ…」みたいな気持ちがあったけど、みんな大変だったんだなあと思いました。しかも少しだけかもしれないけどみんなの事を知れてよかったです。



他の人の作文は名前の由来から何からと書いてあり、自分のことではないのにほほえましくなりました。

私の母もいくつもの病気とたたかっていたので、障害者（身体障害者）をもつ家族の気持ちはよく分かります。母は明るく、近所や、私の友達の人気者でたとえ、何もできなくても、自慢のお母さんでした。「今日も生きてくれてありがとう♡」と毎日思い感謝し、幸せをかんじて生活していました。

私はもともと「障害者の方は…」という考えをもったことがないのでこれからもこの意志を活かして、たくさんの方とふれあっていきたいです。

今の私にとってとても大切な話を聞けたと思いました。毎日仕事に出かけ、家事もやってくれているお母さん。女手一つで私達兄弟をこれまで育ててくれました。そんなお母さんに、日頃「学校でつかれている」だとか言って手伝いもあまりできていません。今回の話や、皆の作文を見て、またお母さんの偉大さを知ることができまし、もっともっと感謝したし手伝いもしたいと思えたし、いつか後悔したくないから、「産んでくれて、ありがとう。」と言いたいです。「いつか」では、後悔するハメになるかもしれない。だからこそ、恥ずかしくて言葉では言えないかわりに、もっとお母さんの手伝いもしたいと思いました。家に帰ったら、日頃の感謝を少し伝えてみようかなと思います。



みんながどんなふうに生まれたかがよくわかりました。母さんにわるいことばっかしてきた私も母にありがとうといおうと思います。私もへそがからまり死にそうになったけど、それでも、母はふんばりながら、生きてね、元気な子になってねと言ってもらえました。何ごとも母や父やありがとうの気持ちを伝えたいです。わたしは、しょうがいしゃは、とくべつとみんないいますが、私は思います。しょうがいしゃでも、この人たちは、すごく物を持っています。母も福祉の仕事をしています。みんなすごいそうです。



(奇跡がくれた宝物 小沢浩著
クリエイツかもがわ より)

